12　(専)家庭

学校番号	303

平成 31 年度　家庭科

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	フードデザイン　新訂版　（実教）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・豊かな食生活を送るため。正しい知識と技術を身につけます。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
・学んだことを自分の生活の問題として捉え、また実践しよりよい生活をめざします。
・栄養士や調理師を目指す人に向け、実践的に取り組める知識・技術を養います。

2　学習の到達目標

食・栄養素に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、料理様式やテーブルコーディネートを学習し生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	食事について関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	食品・栄養素・調理について生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	食品・調理・栄養素・テーブルコーディネートに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 調理計画、実習記録表、レポート、 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、定期考査の結果 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察記録表 レポート、 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 調理計画、実習記録表 レポート、 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	フードデザイン実習	○調理の基本(調理操作) ○料理様式と献立 (日本料理・西洋料理) ○調理実習 ＊調理実習3回	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a: 下ごしらえからの複数の調理操作に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 日本料理・西洋料理の献立の手順に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。 c:生涯を通して 健康で安全かつ環境に配慮した食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生等の技術を日常食の調理実習を通して身に付けている。 d:単元の内容について正しい知識を身につけることができた。	授業観察 ワークシート 実習計画 実習レポート 定期考査
		1学期末考査		○	○	○		定期考査
2学期	フードデザイン実習	○テーブルコーディネート (和風・洋風) ○食品の特徴と性質 ○調理実習 ＊調理実習4回	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:食事を心豊かに食べるためのテーブルコーディネートについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 食事を安全に配慮し食品の特徴と性質を理解し、課題を見出しその解決を目指して考え、適切に判断し表現している。 c: 生涯を通して 健康で安全かつ環境に配慮した食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生等の技術を日常食の調理実習を通して身に付けている。 d:単元の内容について正しい知識を身につけることができた。	授業観察 ワークシート 実習計画 実習レポート 定期考査
		2学期末考査		○	○	○		定期考査
3学期	フードデザイン実習	○テーブルコーディネート (中国風・室内) ○食品の特徴と性質 ○調理実習 ＊調理実習1回	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 食事を心豊かに食べるためのテーブルコーディネートについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 食事を安全に配慮し食品の特徴と性質を理解し、課題を見出しその解決を目指して考え、適切に判断し表現している。 c: 生涯を通して 健康で安全かつ環境に配慮した食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生等の技術を日常食の調理実習を通して身に付けている。 d:単元の内容について正しい知識を身につけることができた。	授業観察 ワークシート 実習計画 実習レポート 定期考査
		3学期末考査		○	○	○		定期考査

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。